

学校経営推進費 評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路実現
評価指標	難関私立大学進学者数の増加
計画名	アドバンス学習ルーム

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する</p> <p>(1) 進学実績の向上</p> <p>ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようなエリアの整備改編を行う。</p> <p>イ 現在行われている土曜講習だけでなく、土曜自習室の開放を行う。</p> <p>ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。</p> <p>※難関8私大・中堅私大の延べ合格者数（平成26年度生132名）を27年度に160名にする</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で20名その他4校で50名をめざす。（平成27年春上位4校2名、その他4校24名） ・中堅私立大学10校の延べ合格者数を200名をめざす（平成25年春150名）
整備した 設備・物品	<p>自習・調べ学習・プレゼンを実践する環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内Wi-Fiを使ったE-Learningの構築と実践 ・Web環境の整った自学習スペースの確保
取組みの 主担・実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・主担 経営委員会：教頭・首席(2)・指導教諭 ・アドバンス委員会：首席と進路指導部が中心になってアドバンスエリアの授業を担当している教員。 ・難関私学文系受験に向けた生徒一人ひとりの到達状況を検証 ・授業評価委員会：指導教諭が中心となった教科代表が集まり、授業評価と学校教育自己診断の分析を実施。また指導教諭による自前の校内研修会を実施。
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校内Wi-fi運用しMoodleサーバーにアップロードした教材数を増やした。 【国語】（小テスト形式で古典単語を更に充実、 【英語】（本校独自の単語2400語を小テスト形式で作成、英文法問題数も増やした。 「語学研修準備講座」は動画形式で聞き取り教材を出発前に研修教材として使用。 「センター試験」問題も一部アップロード） ・利用者を部活動部員に拡大した。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で「宿題や課題が良く出される」平成28年66%⇒平成29年度69%へ。 「予習や復習が欠かせない」平成28年度28%⇒35%へ。 ・難関私立大学8校・中堅私立大学10校の延べ合格者を204名⇒250名をめざす。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で 「宿題や課題が良く出される」平成28年66%⇒69%へ（平成29年度65%）(△) 「予習や復習が欠かせない」平成28年度28%⇒35%へ（平成29年度28%）(△) ※学校教育自己診断は「講義形式」及び「実技形式」の両方を同一質問で実施している。各教科が宿題等学校外での学習機会を多くしているにもかかわらず、数値に現れないのはこの事が原因の一つである可能性がある。 ・難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で10名その他4校で30名をめざす。 （平成29年度、上位4校[関関同立]で13名、その他4校[産近甲龍]で62名）合計75名(◎) ・難関私立大学8校・中堅私立大学10校の延べ合格者を204名⇒250名をめざす。（平成29年度214名）(△) ※各私立大学が競争率を一定数に抑えるため、合格者を絞っており、目標を上回ることはできなかった。
事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、アドバンスコースの生徒・部活動の生徒にも利用者を広げたが、問題に取り組む生徒の数は頭打ちになった。公立高校に料金のかからない（民間ではない、手作りの）E-Learningの導入を図ったが、爆発的な広がりにはならなかった。しかし、この事業により、学習環境が整備されたことは、この3年間の4年制大学進学者数の飛躍的な伸びから、効果は十分あったと推測できる。 ・進学実績の向上を中期目標にしたが、学習する環境を整備したことで、難関8私大（関関同立、産近甲龍）の合格者数が39人⇒87人⇒104人⇒75人と一定の伸びはあり、中堅私大（京外大、京女大、佛教大、追手門大、大経大、大産、関外大、摂南大、阪南大、神学院大）の合格者数も149人⇒271人⇒270人⇒214人と増加したので、効果はあった。 ・E-Learningは、インターネットにつながる環境がスマートフォンしかない生徒も多く、Web上の課題に取り組むことが生徒の通信制限につながる事を嫌うため、広がりが弱いと思われる。多数の生徒が安心して同時にWi-fiにつなげるようなシステムが必要だろう。そうすれば学校で課題に取り組む環境が整う。